

CONTENTS ◆晩秋のつどいレポート1 ◆柳島尚子さんを偲ぶ ◆晩秋のつどいレポート2
◆描かれた奥沢とその周辺 ◆活動報告報告 ◆会からのお知らせ

晩秋のつどいレポート1

落ち葉掃き試行報告

土とみどりを守る会では「街の落ち葉掃きプロジェクト」を世田谷区の平成22年度「地域の絆再生支援事業」に応募し、採択されました。世田谷区の地域風景資産に登録されたエリアを中心とする奥沢2丁目の一部を対象に、昨年の12月に街の落ち葉掃きの「試行」を行いました。今回は、本格実施に向けたノウハウを積むための準備でしたが、これを機会にご近所の方々との新たな交流も生まれ、今後の展開に向けた良い感触が得られました。試行の実施にあたっては奥沢まちづくりセンターと奥沢交和会にご協力をいただきました。

1月27日の「晩秋の集い」には、落ち葉掃きプロジェクトの先輩の成城自治会及び桜新町親和会の各副会長をお招きし、奥沢交和会の理事長、副理事長とも交流をする場が生まれました。こういった共通の活動を通じて各地域がつながり、お互いを励ます意義もあったと思います。そして1月16日の「新春奥沢地区祭り」では落ち葉掃きプロジェクトを紹介するパネル展示を行いました。東玉川地区の方にもお声がけいただき、今後そちらにも活動の輪が広がるかもしれません。

やはり道路に張り出した大きな樹木の落ち葉が拡散しており、それらを重点的にめぐる落ち葉掃きをするのが対応の中心になります。さくら、けや



(道路に枝が張り出している景観木の桜の木です)

き、もみじなど樹種によって落ち葉の時期が違う、そして降雨後や強風の日は落ち葉掃き自体が難しいことから、臨機応変に対応できる体

制が必要です。集めた落ち葉を運搬するリヤカーは必須で、4～8人のグループ+リヤカー1台で、機敏に回れることがわかりました。会としては今年度中に、このようなグループで行う落ち葉掃きのノウハウをまとめることになっています。



(いろいろな道具を使ってみた感想を話し合っています。)

今年度の試行の結果を踏まえ、今後は各町会と連携しながら、来年度に落ち葉掃

きを実施するエリアを検討し、次年度の助成金を申請する予定です。また、できることなら集めた落ち葉を地域内でコンポストし、堆肥を作ることも取り組みたいと考えています。落ち葉掃きプロジェクトの今後の展開にご関心のある方はどうぞお声かけください。よろしく願いいたします。(堀内)



(ご近所の方にお声をかけていただいたり、差し入れもいただいたりしました。)



(皆でやると落ち葉はきは楽しいものですね。)

柳島尚子さんを偲ぶ

「ご報告」

代表理事 堀内 正弘

土とみどりを守る会事務局長の柳島尚子さんが、昨年12月13日、ご自宅で療養中のところすい臓癌のためご逝去されましたことをご報告いたします。85歳でした。

柳島さんには、1998年の土とみどりを守る会の創設時以来、会の事務局長を務めていただき、大変にお世話になりました。この会が小さな集まりから始まり、今では世田谷区も注目する団体にまで成長したのは、柳島さんのご尽力に負うところが大きいです。世代の違いを全く感じさせないコミュニケーションの力をおもちで、そしてとても責任感の強い方なので、やる人がいないことがわかると自分でなさってしまう。このような柳島さんにどれだけ助けられたことでしょうか。自分の利益ばかり優先しがちな今の世の中で、まさに献身的に他の人のために尽くされ、それもいろいろな苦勞を乗り越えてなさっているということを知るにつけ、私など、大きな不自由無しに育ってきた者にとっては、ただただ感服するばかりでした。

柳島さんが思い描いていたことも、まだいろいろと道半ばであったに違いありません。残された私たちにできることは、ご遺志を引き継ぎ、皆が幸せに暮らせるような地域を築いていくことだと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

土とみどりを守る会 代表理事 堀内正弘



(かいわい宣言の登録証を柳島さんと一緒に区から受け取りました)



(チェリーセージの手入れを率先してなさっていらっしゃいました)



(柳島さんのイラスト)

「柳島尚子さんは」

理事 平野久美子

地域のために尽くしてこられた柳島尚子さんは、実践躬行の気概に満ちた温かな方でした。さりげなさの中にリーダーの資質を備えておられました。生まれたときからのご近所つきあいでしたが、こうした柳島さんのすばらしさを改めて身近で感じたのは「土とみどりを守る会」のお手伝いを始めてからでしょうか。無私の心で励むその活動姿勢こそ、「公益」をなんたるかをわきまえた noble oblige (ノーブル・オブリージュ 高潔な奉仕) でした。

ご自宅で療養中の11月、お見舞いに伺ったのが最期でした。そのときすでに、身の回りの整理にめどがついたのか、安堵の微笑みを浮かべておられま

した。残された時間とごく自然に向き合う姿に、敬服するしかありませんでした。

私は今も柳島尚子さんのぬくもりを身近に感じます。ちょうど、お日様に布団を干したあと、日だまりの温かさがずっと続いているように……。彼女の「ぬくもり」を人から人へと大きく広げることで、柳島尚子さんのご遺志を受け継ぎたいと思うこの頃です。



(柳島さんのイラスト チェリーセージ)

晩秋のつどいレポート2

奥沢コンサート ♪ 小川えみさんのソプラノ

奥沢コンサートは一昨年1月以来2度目の登場です。今回は晩秋のつどいでしかも第1部で落ち葉掃きのお話があったので、秋や落葉に因んだ曲を歌って頂きました。オペラの曲には落葉のテーマは少ないと思いますが、集いのために日本の唱歌を中心に選んで下さいました。

「小さい秋みつけた」、「たき火」、「里の秋」、「通りゃんせ」、「かあさんの歌」、「赤とんぼ」、「待ちぼうけ」、「この葉」、と心に沁みる歌に続き「紅葉」を皆で歌いました。

ピアノ伴奏は神谷由美さん、ソロではドビュッシーの「アラベスク」を弾いて頂きました。

オペラ「カルメンより」では、前日千葉のコンサート会場近くで感動した真赤なカエデの落葉を持参され、落葉を撒いたり、それを箒で掃いたりする所作を交えて歌われるサービスぶりで、会場は大いに盛り上がりました。

続いて「ハバネラ」、「ジプシーの歌」、「ハッパッパ」と歌いこみ、アンコールは、グノーの「アヴェマリア」で締めくくられました。

張りのある透明なソプラノは秋の唱歌に驚くほどマッチし、時にはユーモアあふれるコミカルな歌いぶりに、今年の特に赤色の濃い紅葉とともに行く秋を皆様堪能されたことでしょう。(鈴木)



(小川えみさんと神谷由美さん)



(小川えみさん作成の曲目表から) (落葉を撒きながらカルメンを歌う)



描かれた奥沢とその周辺

④野見山暁冶「いつも今日」

(シリーズで小説や随筆に登場する奥沢の様子を紹介しします。)

現在も第一線で活躍する画家でエッセイストの野見山暁冶(1920~)は、結婚間もない1948年(昭和23)、横浜から東玉川に移り住みました。当時のことをエッセイ集「いつも今日」(日本経済新聞社)に記しています。

焼け跡のあちこちにモダンなのか簡素なのか分からない四角い木造の家が建ちはじめた。奥沢の駅から多摩川へ向かって暫く行った雑然とした界隈に陽子と住んだのは、その年の冬に入ろうとする頃だった。(略)田園調布の駅に出る途中に小さい絵具屋が出来て、ルーベンスという看板をかかげた。スマートなお兄さんが鉋をかけたり鋸を引いて絵具の棚をつくり、色気のあるお月さまみたいな彼のお姉さんが、羞かしそうに開店の挨拶に回る。

姉さんではないというのは間もなくバレた。スマート・ボーイの虎さんが慶応の先輩の奥さんを横取りして、取り敢えず始めた商売だ。二人とも大酒飲みときている。飲む金なんか持ちあわせのない時代、これはいい溜まり場が出来

たと、この界隈の中途半端な絵描きや彫刻家が、夜ともなれば集まってくる。姉さんならぬ姐御気取りのお光ちゃんは土地持ちで、やたら気っ風がいい。しかしあまり絵具代が溜まるとぼくも気がひけるので、店でアルバイトをさせてもらったり、子供のお絵描き教室の広告を出して、その斡旋もお願いし、昼も夜もルーベンスに寄りかかって食いつないだ。(略)田園調布には有名な画家がいる。小糸源太郎、岡鹿之助、猪熊弦一郎、それに新制作(注・美術団体「新制作協会」)の研究所もあって、ぼくは注文とりに回る。

四年後の1952年末、野見山はフランス政府私費留学生として渡仏。1955年には妻・陽子を呼び寄せますが、翌年、癌によりパリのキュリイ病院で死去。それだけに野見山にとって、貧しくも楽しい新婚生活を送った奥沢近辺は思い出深い土地であるようです。なお、野見山の滞仏中、留守宅には妹とその夫である作家、田中小実昌が暮らしていました。(香山)

活動報告

- 秋のチェリーセージのメンテナンスを、11月21日と12月11日に実施しました。年々夏が厳しくなってくるため、深いプランターに変え又一株植えにしました。猛暑の中水遣りありがとうございました。
- 住民の方から寄付を頂いたシンビジウムの鉢を晩秋のつどいで頒布しました、ありがとうございました。
- 1月16日、東玉川小学校で恒例の新春奥沢地区祭りが開かれ参加しました。いつもの通りの会活動紹介、チェリーセージ苗の無料配布、温かいハーブティーのサービスによる来訪者との交歓ができました。
- 故柳島尚子さんのお別れの会が、1月24日午後自由が丘のメリックスホールで行われます。柳島さんは長年に亘る多くの方々とのお付き合いからご遺族が催されます。微力ながら当会としてお手伝いしています。

会からのお知らせ

- 2月5日(土)13時30分、奥沢東地区会館で早春のつどいを開催します。第1部は縄文犬の保護に長年携わってこられた黒井眞器さんによる「犬と共生の暮らし」のお話、第2部は渡辺忠治さん達の尺八と琴の演奏で、春の早い到来を呼ぼうと思えます。寒い中ですが皆様奮ってご参加下さい。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会を支える会費は1口1000円です、どうぞ協力お願い致します、ご連絡は下記へ。

編集後記：創刊以来故柳島さんは編集長としてニューズレターに心血を注いでこられました。単なる会員向けの会報に止まらず、柳島さんの情熱で多くの住民の方に書いてもらっており、地域へのコミュニケーション誌となっていることは、毎回約1000部を配布していることからもうかがえるでしょう。(J)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901
世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659
ホームページ : <http://tsuchimidori.net>
e-mail : info@tsuchimidori.net